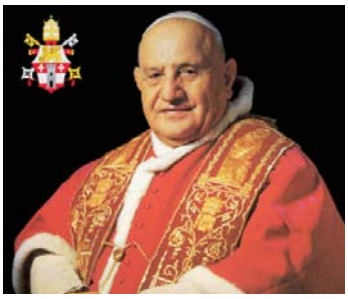
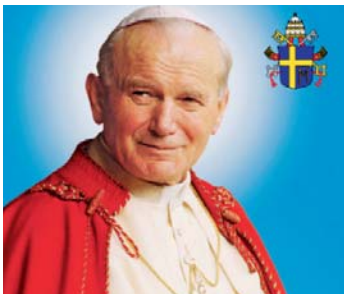
ヨハネ23世とヨハネ・パウロ2世、聖人に列される

学長　片岡　瑠美子

2014年４月27日、ローマ教皇フランシスコはバチカンの聖ペトロ広場における式典で、
福者ヨハネ23世と福者ヨハネ・パウロ2世を列聖し、両教皇は勇気といつくしみの人だったとたたえた。



聖ヨハネ23世
（1881－1963）
第261代ローマ教皇
在位　1958－1963



聖ヨハネ・パウロ2世
（1920－2005）
第264代ローマ教皇
在位　1978－2005

聖ヨハネ23世が14歳のときから81歳で逝去する年までに記した『ヨハネ23世　魂の日記』は、単なる毎日の行動記録ではなく、黙想や祈り、反省や決意の記録である。日常の指針とした格言もまとめられていて、人々を魅了した、いつも絶やさなかった笑顔と行動力、人を包み込む素朴さとユーモアが天性のものであると同時に努力の賜物であることを知ることができる。そこにはユーモア、楽観主義などで表現される教皇の姿とバチカンの外交官としての慎重さ、苦悩、明晰な判断、忍耐力をもち、常に祈りによって問題を解決するだけでなく、敵意を持っていた国、宗教の人々とも深い信頼関係を築いた微笑みの教皇を見ることができる。はじめは、高齢で選出されたということで後世に影響を与える業績は残せないだろうと見られていたといわれるが、「第2バチカン公会議」を開催し、カトリック教会のみならず、世界に新風を吹き込んだ教皇である。

聖ヨハネ・パウロ2世には、教皇選出直後に聖ペトロ大聖堂バルコニーに立たれての第一声を聞くことができ、親しみを感じてきた。戸惑いを感じさせるやさしい声で、「神は遠い国から教皇を呼ばれた」とイタリア語で話された後、力強く、「恐れないで。恐れないで心の窓を開け放ちなさい。そうすれば、そこにキリストが待っている」と呼びかけられた。この言葉は特に若者たちとの対話の中で繰り返された。2013年に13回目を迎えたワールドユースデイ（WYD）は、若者に信頼と希望をおく教皇によって1984年バチカンの聖ペトロ広場で初めて開催された。五大陸から集まった若者たちがシュロの葉を手にし、歌い、祈りながら、バチカンに向かう道路という道路から、湧き出すように流れ続ける光景にただ驚いていた。西暦2000年の大会もローマで開催され、学生たちと共に参加したが、即位から22年、高齢と病で不自由な身体にもかかわらず、野外での徹夜祭に出席し、ミサを司式し、病気が奇跡的に回復したかと思うほどに若者と共にいる時を楽しまれた。

世界平和をめざし、人々と対話するために自らバチカンを出て「空飛ぶ教皇」と呼ばれることになった教皇は、「その国の言語で話すことは、その国の人々、文化に対する尊敬の表現」という考えをもち、1981年、わずか四日間の日本訪問に際しても、ほとんどの話を日本語でされた。「戦争は人間のしわざです。戦争は人間の生命の破壊です。戦争は死です」に始まる力強い「広島平和アピール」は、日本人はもちろん、世界の人々を感動させた。「日本の教会は数の上では小さいが、その文化的影響力には大きいものがあります。とくに教会が福祉、教育の面で貢献していることをうれしく思います」と離日の挨拶で残してくださったこの言葉を、カトリック大学として心に留めておきたい。そして、ここ恵の丘を訪れてくださった方が聖人となって見守ってくださっていることを喜びたい。

純心女子学園
創立 80 周年
[1935－2015]

学校法人　純心女子学園は、2015年に創立80周年を迎えます。
記念行事等については、学園ウェブサイトでご案内しております。
URL http://www.n-junshin.ac.jp/